（田村委員提出資料）

「市」の役割について（メモ）

02.11.5
国際医療福祉大学・田村

○　市立病院のあり方を考えるにあたっては、医療における「市」の役割についても検討すべきであると考える。市立病院は、医療において「市」が役割を果たす際の手段の一つと位置づけられるからである

○　医療における「市」の役割についての基本的な考え方

１）「市」の役割は、市民に対して質と量の両面で充分な医療が提供されているかを常時監視し、不足している面があれば（あるいは、将来不足する可能性が危惧されれば）、さまざまな形で対策を講じることである

２）仮に、民間医療機関等により、充分な医療サービスが市民に提供されているのであれば、その時点で「市」がとくに果たすべき役割はない

３）逆に、ある分野・地域の医療が著しく不足した場合は、「市」がその不足解消に大きな役割を果たすべきである

４）市がとりうる対策には、さまざまな選択肢がある。直営の公立病院を保有することから、公設民営、補助金提供、病院誘致、等々である。効果や効率の側面から適切な方法を選択すべきである

５）充分な医療が提供されているかを監視する方法には、地域住民、患者団体、地域医療機関、医療関連団体、救急隊等との定期的な懇談会や、住民に対する定期的な医療ニーズ調査、等が考えられる